



男女一緒に生徒会活動も始まる!

●「特進コース」の編入は9月のみ

インターナショナルコース（随時受け入れ）を除いて、途中編入は二学期からのみ可能です。そのための「国際生二学期試験」は、7月初旬の1回限りとなります。つまりは2年生以上の一学期（4月）編入、および1・2年生の三学期（1月）編入の募集はありません。インタークラスから「特進コース」への転籍もできません。

なお、従来型の国際生入試（4月入学）は、12月の1回のみ実施します。また、海外入試、および国内の転編入試験は行いません。ちなみに、「特進コース」からインタークラスへの転籍は、学年進級時のみ可能ですが、特別の審査があります。また、転籍する場合、インタークラスの入学金等学費から本科の入学金等学費を差し引いた額をお納めいただきますし、寄付金も改めてお願いします。

小山 和智（おやま かずとも）

広尾学園中学校高等学校 国際担当
（前、順心女子学園）



海外子女教育振興財団の外国語保持教室主任のほか、ジャカルタ日本人学校事務長、クアラルンプール日本人学校国際交流ディレクター、啓明学園国際教育センター所長を歴任。

現在は「グローバル化社会の教育研究会」の事務局長としても活躍中。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/>

英語補習校だより (12) 英語“で”学ぶ

Gr. 6を修了して帰国しても、誕生日によっては小学校6年に編入しなければならないお子様があります。日本の義務教育（満15歳まで）では「飛び級」はないからです。そうしたお子様は、いくら中学校にお入りになりたくても、とりあえずは公立小学校に通いながら、週末は英語補習校などで年齢相当の英語力に常に向上させていく必要があります。

広尾学園の公開講座「国際英語」に「上級クラス」を設けていますのも、こうした児童の“学力向上”に資するためです（単なる“保持”では、海外にいる同級生からは学習が遅れていくこととなります）。しかし、小学5年の子を連れてきて「この子は英検準1級にも合格しているのに、上級クラスに参加させてほしい」とおっしゃる保護者があると、困ってしまいます。

英語補習校は「英語（日常会話）を学ぶ」のではなく、「英語で（教科を）学ぶ」場所なのです。それは、日本語補習校が日本語学校ではないことと同じです。言語習得の早い遅いの個人差はもちろんありますが、年齢相当の認知力・思考力なども併せて育てていこうとされていることをご理解ください。

注）広尾バイリンガル教室は、2月で中止となりました。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/Eigo-Hoshuko-J.htm>

広尾学園中学校高等学校
（前、順心女子学園中学校高等学校）
〒106-0047 東京都港区南麻布 5-1-14
TEL. 03(3444)7271 FAX. 03(3444)7192
www.hiroogakuen.ed.jp



昨年4月に共学化した新生「広尾学園」。2年目の入試は、600人もの新入生を迎えて、大成功でした。生徒数も一挙に1000人を超えるまで急増し、新学期からの先生や教室の確保が大変だったでしょう。うれしい悲鳴が聞こえてきそうです。

その影響でしょうか、「帰国生の資格」が見直され、コースの転籍ルールの明確化が行われました。昨年来、広尾への進学を考えておられた皆様は、新しい資格・ルールをご確認ください。

大改革中の広尾学園。インタークラスも含めて、目が離せません。